

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0894200013		
法人名	有限会社スズシヨウ		
事業所名	グループホーム「えがお」ユニット 温		
所在地	茨城県結城郡八千代町府落田161番地10		
自己評価作成日	2022年8月23日	評価結果市町村受理日	2022年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0894200013-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方がたが出来るだけ自分の家と同じような環境で過ごせるようにしています。施設の敷地内には畑があり、収穫の楽しみもあります。食事についても利用者の要望なども取り入れたり楽しみのある食事も提供しています。(生寿司 お花見弁当)今年もコロナウイルスの感染予防のため、行事や面会については厳しく制限しています。主治医による訪問診療、訪問薬剤師との連携、看護師による健康管理で利用者の方がたが安心、安全な生活が継続できるようにしています。が家族の意向に配慮したターミナルケアも取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設17年目のホームである。地域の一員として受け入れられているが、コロナ禍で方針を変えざるを得なかったり、利用者の高齢化など新たな局面を迎えている。晴れた日は富士山や筑波山が見え、畑の緑や柿の実など豊かな自然と田園風景に囲まれている。看護学生の実習を受け入れながらも、利用者から感染者を一人も出さないという目標を掲げ、訪問調査時点でも感染者は出ていなかった。また、オーナーの発想で廊下には交通ルールの張り紙があったり、ホーム内随所に感染予防に関する注意喚起、格言や人生訓などが掲示されているユニークなホームである。***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念の読み上げ、命令口調相手を否定する言葉、上から目線の言葉の禁止、実践に繋げている。	基本理念を柱に、実践理念、具体的理念があり、ケアの実践に向けての工夫がなされている。職員も日常的に意識している。	ホームの理念に基づいて、利用者が落ち着いて生活できる日常が継続できる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナウイルス感染予防のため、行事は控えている。	感染予防の為、利用者と地域との接触はないが、オーナー知人の農作業を手伝うなど、ホームと地域とのつながりは継続している。看護学生の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防のため、行われていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため、文書を通して行い、意見を頂き相談などを行っている。	対面での会議を考えているが、運営推進委員の意見を尊重し、外部との接触を避けて文書開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染予防のため、接触の機会を避け、電話や文書を利用したの連繋を密にしている。	利用開始時や退去時の届けなど書類提出時は役所に出向く。生活保護を受けている利用者もあり、年2回、ケースワーカーの定期訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の取り組みの整備、周知、研修などを行っている。	オーナーはじめ職員も『拘束はしない』という強い思いはあるが、やむを得ず拘束に至る場合があり、関係者で十分な話し合いを設けている。インシデント、アクシデントレポートがあり、事故対策と共に拘束防止についても話し合う。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内、社外研修などで意識を高め、防止に努めている。朝礼時に尊厳を傷つける言葉の禁止や、上から目線の言葉の使用を禁止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外研修などで意識を高め、必要時の支援ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけ見学していただき、理解、納得出来るように説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口、電話などで随時意見を受けている。また、支払いを現金にし、月に1回以上、面会の機会を作っている。	最低でも月1回、家族との面会の機会を作り、その時に直接意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、会議、業務改善提案書などを機会を設け、意見を出しやすくしている。	月1回、職員会議を開催し意見を聞く。改善策も職員全員で考え、共有できる。利用者に関する事がほとんどで、介護方法の確認や、オムツやパットの使い方など忘れがちな基本的な事も話し合う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情や要望などを聞きながら、働きやすい環境、シフト等を考慮し努力や、協力を適切に反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の充実を図り、希望を加味しながら社外研修の機会を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染予防のため、現在は停止している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調で十分に要望などを把握し入居後も注意深く関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と必要としている支援を共に話し合い、見極め初期段階のサービスを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする大切な一員として、人生の先輩として尊厳ある支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事はコロナウイルス感染予防のため、自粛している。月の支払いは現金にして面会の機会を作るなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの感染予防上、家族以外の方の面会は極力控えていただくようにしている。面会は自室にて	利用前の馴染みの場所より、ホームが馴染みの場所となっている。ほとんどの利用者がリビングで過ごしており、人の気配や人の声で落ち着くようだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な性格の方がおられるので孤立せず、ともに暮らす仲間となるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	計画終了後も気軽に相談に乗り、相談にのっている。他の施設入所時は不安なく移動できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向を把握するようにしている。	日常生活での会話の中からくみ取れる。声掛けにも工夫して、答えやすい様な言葉かけをしている。自発的に伝えられない人は、顔の表情や目の動きなどで把握する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	適切に把握し職員間で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適切に把握し有する能力などを活用できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を理解し関係者の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員からの情報を参考にしてプランを作成。モニタリングは毎月行い、モニタリングシートとチェック表を活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、朝礼、夕礼時のミニカンファレンス、看護職員とケアマネ及び計画作成担当者の密な連携による共有、実践、計画の見通しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況やニーズに随時対応できるようにとりにくんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の消防、学校、警察などに協力を依頼している。ボランティアの希望も多く、積極的に受け入れているが今はコロナウイルス感染予防のため行事は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療、必要時の電話相談や往診で適切な医療が受けられている。納得した治療方針となるよう、連携ノートの活用や適宜むんてらを行っている。	定期的な訪問診療が入り、4グループに分けて毎週交代で診察を受けている。検査や通院が必要な時は職員が付き添う。診察後は結果を家族に報告する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の他、常勤の看護職員がおり、日常的に連携できるようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が医療機関と蜜に連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の意向の確認、事象発生時のメンテラ、意向の確認など十分に話し合い、方針を決定・共有している。	看取りに関する説明は契約時に行う。看取り期になると医師から説明があり、家族に同意書をもらう。同時にケアプランの見直しを行い、看護師である管理者を中心に職員の体制を整える。職員は看取りの経験もあり、不安はないとのこと。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的な指導、研修などの実践力の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害訓練の実施を定期的に行い、運営推進会議（現在は会合はなし）で地域への協力を依頼している。	自然災害はおきないとされる立地である。断水の時には井戸水に切り替えられるような対策を取っている。火災時の避難訓練を昼夜想定で年2回行って、初期対応の大切さを感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員の言葉使いを、朝礼で読み上げ、常に意識を高めるようにしている。	特に言葉使いに気を付けている。具体的な禁止用語は例をあげて注意し、声の強弱にも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的でなく、利用者の希望や意識を確認するように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日を穏やかにゆったりとすごしていただくように心かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服の確認や訪問理美容で本人の意見を尊重するなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家農園で採れた野菜を中心に地元のメニューを取り入れている。	献立と食材は業者委託。季節に応じた献立も、事前に連絡することで対応してもらえる。利用者の希望で寿司を提供した事もある。出来るだけ希望を取り入れ、食の楽しみを味わってもらう。自家農園の新鮮野菜は、当ホームの自慢である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態にあわせた調理法で食事を提供している。食事摂取量の確認もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、食事後一人一人に応じて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は特に、できるだけトイレで排泄できる様本人の能力を活用し支援している。	出来るだけトイレでの排泄を心がけている。日中はリハパンで、夜のみおむつ使用の方もいる。尿意、便意のある方はトイレでの排泄を支援する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活上、運動や、繊維質の食物を摂取できるようにし、便秘薬以外の方法をとるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保持できる様、声掛け意向の確認した上で週2回の入浴を支援している。	ゆっくりしてもらえるように、入浴時間は長めにとっている。長い人は30分ぐらいの入浴を楽しむ。入浴介助専任の職員がおり、重度の方は二人体制で介助。場合によってはシャワー浴になる事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態や希望に応じて、ゆっくり休息したり、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が適宜指導しながら職員間で服薬の状況を一人一人確認し、誤薬のないよう、二人体制で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事の経験のある方も多く、昔の畑仕事の話をして共通の話題を楽しんだり、畑を眺めてお茶を飲んだり、収穫したものを食したり楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染の危険もあるため、今は外出の機会は取れていない。	利用者の多くがあまり外出したがらないので、広いバルコニーで外気浴をもらおう。ホームの周囲は広い野菜畑になっており、自分の畑と思って手伝う事もある。バルコニーからは季節の空気を感じ、視界からも季節の景色を楽しむ事が出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状態に応じ所得や管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りに希望時には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不安にならず、刺激にならないよう、また、馴染みの物を配置して、心地よく過ごせるような工夫している。	日中はほぼりピングで過ごしているが、落ち着ける環境作りに配慮している。壁には利用者と一緒に作成した作品が飾ってある。作っている過程を通して馴染みの物となり、落ち着けるのではないかと感じている。廊下には運動の目標距離数などが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や、窓際、デッキなど共用区間だが、個々の過ごし方が出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、写真など心地よく暮らせるよう写真などを飾り、落ち着いて心地よく過ごせるように工夫している。	居室で過ごすのは就寝時だけの方が多く、必要最低限の物が置いてある。壁に家族の写真がたくさん貼ってあり、子供から曾孫さんまでの笑顔が、居室の雰囲気を明るくしている。空き箱に布を貼って整理箱に利用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居されている方々ができる事や、やれそうな事の継続を図り、励ましや働きかけで生きる意欲を向上させ自立」支援を支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームえがお

目標達成計画

作成年月日 : 2022年12月13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	施設では職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど各自が向上心を持つて働けるよう職場の環境、労働条件の整備に努めている、法人内外の研修を受ける機会の確保や施設内の勉強会で力量の向上に努めている。現在は職員の高齢化が問題となりつつある。	職員個々の事情や要望などを聞きながら、働きやすい環境を考慮していく。若い職員が増えるようにしたい。	職場の環境を整え、労働条件の改善、働く意欲の向上を図って行く。職場内のパワハラなどにも注意していく。介護、介助の様々な場面で利用者への対応の仕方、言葉使い等丁寧に指導し、仕事に対する熱意がもてるように、看護師、先輩職員が取り組んで行く。	12ヶ月
2	30	入居者の方々が痛む所がなく、健康で元気に生活できるように主治医定期的訪問診療との連携を図り、職場内では看護師や介護職員の健康管理で速やかに適切な医療が受けられるように継続していく。	入居されている利用者の方が心身ともに痛むところがなく、健やかに一日が送れるようにする。	定期的な訪問診療、療養の支持、施設内での毎日の健康管理を行う事や一人一人の状態の把握で早期発見、悪化予防に努める。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。